



エンペラータマリン Emperor Tamarin

南アメリカ産のマーモセットの仲間ですが、立派なひげを持っていることから、皇帝のひげのタマリン、エンペラータマリンとよばれています。アマゾンの上流域のボリビア、ペルーの国境に近いジャングルに生息しています。

このエンペラータマリンはモンキーセンターへは初めてのお目見えです。

日本の動物園では千葉県にある行川アイランドという動物園に2年前から飼育されているのが最初で、2番目の珍しいサルと言えましょう。こちらは残念ながらオス1頭だけ、目下メスの入手に努力しています。(日本モンキーセンター学芸員 水野礼子)

写真提供 日本モンキーセンター

目 次

● 昭和63年度愛知県博物館等職員研修会報告	2
● 研究討議の概要	2
● 第13回三県博物館協会交流研究会報告	3

昭和63年度

愛知県博物館等職員研修会報告

昭和63年度愛知県博物館等職員研修会が、昭和63年9月8日(木)～9日(金)にかけ、尾西勤労青少年福祉センター(尾西グリーンプラザ)を中心として尾西市、一宮市で開催されましたので、その概要を御報告いたします。

日程 第1日目(会場 尾西勤労青少年福祉センター)

13:00～13:30 受付

13:30～13:40 あいさつ

　　愛知県教育委員会

　　文化財課長 加藤健一氏

　　愛知県博物館協会

　　会長 山田五夫氏

　　尾西市教育委員会

　　教 育 長 真野幹夫氏

13:40～17:00 研究協議

　　テーマ「博物館・美術館の展示効果」

上記議題のもと、豊橋市自然史博物館学芸員家田健吾氏、市立名古屋科学館課長三輪克氏、徳川美術館学芸員四辻秀紀氏、尾西市歴史民俗資料館学芸員伊藤和彦氏、一宮市博物館学芸員毛受英彦氏の五氏による事例発表のあと、参加者による活発な討論が行われた。

討論終了後、討論会第2部(懇親会)に移り、夕食を共にしての情報交換や討論に時を忘れるほどであった。



日程 第2日目(見学会)

9:15～

9:30～10:30 尾西市歴史民俗資料館

11:00～12:00 一宮市博物館

12:30～13:30 昼食

13:45 JR尾張一宮駅前で解散

14:00 尾西勤労青少年福祉センター
で解散

2日目は見学会で、尾西市の御好意により、バスを提供いただき、尾西市歴史民俗資料館では伊藤和彦学芸員の又、一宮市博物館では毛受英彦学芸員の御案内で施設並びに展示を見学し、1日半の有意義な研修を行うことが出来た。
(実行委員 岡田芳幸記)



研究討議の概要

(テーマ) 博物館・美術館の展示効果

実行委員 岡田芳幸

愛知県博物館等職員研修会で行われた研究討議につきその概要を記して報告とします。

1. 従来より博物館職員の間では展示とその効果の問題について数多くの議論が幾度となく繰返されてきた。しかしその内容は、各々の館の立場や学芸員の意識の相違により議論がかみあわず、いずれの場合も最終的な意見の一一致をみるとことなくおわりました。今回の討論では、近年愛知県内にオープンした館、あるいは大幅な展示内容や展示方法を転換したり、その計画を有する館(自然史系博物館=豊橋市自然史博物館 科学館=市立名古屋科学館 美術館=徳川美術館 歴史民俗博物館=尾西市歴史民俗資料館 歴史博物館=一宮市博物館)に事例発表をしていただき、各館の新しい展示方法とその効果について、全体討論を行った。

2. (豊橋市自然史博物館学芸員 家田健吾氏)

館の設立に関わる建設概要にはじまり、展示の構想としての①基本理念 ②展示内容を中心に、入館者の知識の導入として入口附近に恐竜の模型を設置し、エアーコンプレッサーで模型を動かし

音声と動きによって入館者の興味を呼び起こす試みや、現代から過去にさかのばるために、センサーとボディソニック（低周波スピーカー）によりタイムスリップのイメージを高める方法、さらには生物に樹脂を滲み込ませ、もとのままの状態で作製された標本等の新しい試みが紹介された。

3. (市立名古屋科学館課長 三輪克氏)

理工系博物館の展示の現状についてと題し、市立名古屋科学館の従来の展示と新展示構想を対比して“モノをして語らしめる”展示と科学技術に関して、絶えず発展するために陳腐化と老朽化が起こり、これ等の問題点を解決するために、入館者特に団体に対しては展示学習プログラム等の作製、展示に伴う経費等の獲得、そのための外部からの協力の必要性等について論じられた。

4. (徳川美術館学芸員 四辻秀紀氏)

新徳川美術館の常設展示について、収蔵資料全體が全て表道具と奥道具とに分けられ、各文化財を武士のシンボル—武具・刀剣、大名の数寄—茶の湯、大名の室札—書院飾り、武家の式染—能一、大名の雅び—奥道具のテーマに分類し、このテーマを満足させる組み合わせ展示によって構成されている等の美術品を、単なる美術品として鑑賞に供するのではなく、用いられた場所、あるべき姿、として展示する生きた展示方法によっているとの説明があった。このため展示室内に名古屋城の書院、猿面茶室の復元、能舞台が設置され又源氏物語絵巻等については映像を用いた展示を、さらに団体等の見学の場合は映像によるオリエンテーションが行われている等、新しい視点に立った美術館を紹介された。

5. (尾西市歴史民俗資料館学芸員 伊藤和彦氏)

尾西市歴史民俗資料館の展示についてと題し、I館の概要、II開館にいたる経過、III展示構想、IV展示のテーマに分け、尾西市が有する歴史的、地理的条件である農業、木曽川、美濃路起宿、尾西織物地帯をポイントとして①村・農耕生活 ②川・木曽川 ③町・宿場町 ④織物のテーマを設け、実際の展示にあたっては、買継問屋の二間を復元、起宿の町並み(1/250)模型、船橋の復元(1/150)、手動時代の織屋の復元(1/20)、中規模織物工場の復元(1/20)、典型的な四間取り農家の復元(1/20)等に当時の風俗、習慣を知りうる資料を多角的に配した展示を行い、人々の生活を目から理解出来

るよう心掛けた展示としているとの発表がなされた。

6. (一宮市博物館学芸員 毛受英彦氏)

昭和62年11月に開館した一宮市博物館について、
1. 開館にいたる経過 2. 建設理念 3. 建物の概要 4. 設計者の選択 5. 展示について
6. 展示効果の六項目について説明され、建物については特に外壁に織りをイメージした点や展示効果としては遺跡表土の部分をそのままの形で展示了したものや、墓のジオラマ、真清田神社、妙興寺等の復元模型、クイズ式によるビデオ等映像解説資料に力を注ぎ、動かないものを動かして理解出来る様配慮した。織機の動態展示も試みている。これは展示資料の実物優先の基本構想にもとづいている。又農具等の内、実際に使用出来る資料を置いているが、これ等は大変子供達に人気が高い等、現状とのかかわりから展示効果についての説明が行われた。

7. この後五館の事例発表にもとづき自由な討論に入り、徳川美術館の新展示ケースや、ガラス、光源等による展示効果の説明を四辻氏より聞き、続いてキャプションが展示効果として、どの程度の役割をはたし得るかについて討論がなされ、名称では展示に対する効果は得られない。すなわち限界がある。展示を見てここからより深い知識を得ようとする効果を見学者に与えることが大切なことであり、名称にこだわる必要がないではないか。知識を求められた時に行きどまりにならない必要がある。さらに映像にも限度があり、全ての展示や効果には必ず限界があることを肝に命じて展示活動を行うべきであり、キャプションも目ざわりなものはできるだけ避け、ビデオブースを活用して字による表現は最小限にとどめることが必要と思われる等多くの意見が出された。

第13回三県博物館協会交流研修会報告

熱田神宮宝物館 高橋力雄

昭和63年10月18日(火)から同19日(水)の2日間にわたり、第13回東海三県博物館協会交流研修会が、岐阜県海津町の海津町文化センター及び輪中周辺で開催された。

日程 第1日目(会場 海津町文化センター)

12:30~13:00 受付

- 13:00~15:30 研究協議
 　　「各館の現状と課題」
- 15:30~17:30 講演（海津町長）
 　　「宝暦治水と近代の治水」

上記日程のもと、はじめに岐阜県博物館協会機関紙委員長川瀬善忠氏の司会で、岐阜県博物館協会副会長青木允夫氏・海津町長伊藤光好氏・県教育委員会文化課長加藤英夫氏の挨拶があり、引き続き研究協議にはいった。

○愛知県=日本モンキーセンター動物園学芸員水野礼子氏は、館長の代理としてその原稿を代読しながら、営利を追求する日本モンキーパークと併設されている私立館としての現状を語り、又モンキー友の会・サマースクール・自然観察会の活動をスライドを使って説明された。今後の課題としては、自然に近い環境に施設を近づけていくこと、ワシントン条約による動物の輸入禁止条項を動物園等に対して緩和していく運動をすすめたい等の発表があった。

○三重県=鳥羽水族館館長中村幸昭氏は、ヨーロッパにおける「ズーチェック運動」で、複数の館に休館・閉館の事態が生じている事例を挙げ、この運動は今後4~5年内に日本へ移入されるだろうとも述べられた。又水族館の大型化がすすむなかで、如何に多くの入館者を得るかの問題についてディズニーランドの清掃人を例として、館長から臨時職員まであのサービス精神を学ぶべきだとし、併せて音・光のハーモニーといったハイテクを利用し、他館・他分野とのタイアップ等、何か負荷価値をみつけなければならないと熱のはいった発表があった。ちなみに、氏の経営訓は我々にとっても大変参考となるので記させていただけば、

1. アンテナを高く
2. 先手必勝
3. 決断力
4. 数字に強くなろう
5. レパートリーを広く
6. 一目惚れしよう
7. 記憶力の強化
8. 社交性を幅広く
9. 積極的展開
10. いつも心に夢とロマンを

さらに、三重県鳥羽地方は国からリゾート地区に指定されたことにより、国から無利子で借入金ができる等のメリットが多い点から平成4年の完成を目指に水

族館が全面改築することになった報告があった。
 ○岐阜県=高山屋台会館館長谷田勉氏は、流石に桜山八幡宮宮司らしく会館設立までの苦労話を語られ、益々の指導を各位にお願いされた。

事例発表後、海津町長伊藤光好氏により「宝暦治水と近代治水」と題し御講演があった。氏は、高齢にもかかわらず平安時代からの新田開発、輪中の話、そこに住む人々の生活様式等をユーモラスに語られ、木曾三川治水の恩人オランダ人ヨハネス・デ・レーケにちなんでオランダ公園を作る計画もあるよし拝聴した。以上三氏による事例発表のあと、参加者による活発な討論も行われた。

研究協議終了後、場所を宿舎でもある海津苑に移し懇親会が行われ、第1日目の日程を終了した。

日程・第2日目（見学会）

9:00~12:40

福原輪中一船頭平公園（閘門及び木曽川文庫）一治水神社一中央水郷地区センター一高須輪中排水機場を見学、昼食の後解散した。



「愛知の博物館」No.46

発行日 平成元年1月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

<0561> 84-7474